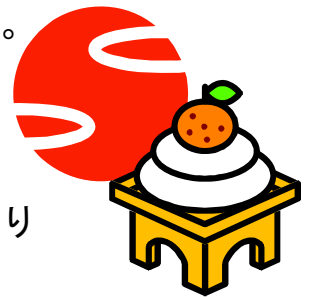


平成24年1月号（第109回）

# 阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、  
患者の皆様とともに生命と健康を考える医療を実践します。

新年、明けましておめでとうございます。  
阿伎留通信も、発行から9年目を迎えることができました。  
これからも身近な事柄を、お伝えしていきたいと思っ  
ています。



平成24年最初の阿伎留通信は、耳鼻咽喉科の山村医師より  
お話をさせていただきます。

## 「本当は怖い耳鼻科の病気：急性喉頭蓋炎編」

とある日の出来事です。

“のどが痛いなあ”

昨日の夕方寒かったから冷えたかな？ 熱も無いため様子を見ることにしました。昼になっても変わらないため、のどの痛みに効く〇〇〇（市販の感冒薬）を飲みました。昼過ぎには、つばも飲み込めず、口から吐き出すようになりました。

“なんか変だなあ？”

熱いものを食べたときのような、「ハッ、ハッ」とふくんだような声しか出せません。

“これは困った”

近くの某医院を受診したところ、のど風邪と診断されました。

薬を飲みましたが、横になると息が苦しくて眠れません。

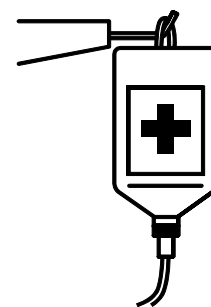
“もう駄目だ”

家族に、“東京都医療機関案内サービスひまわり”に連絡をしてもらいました。少し遠いのですが、対応可能な耳鼻科を見つけました。病院では深夜

にも関わらず丁寧に應對してくれました。

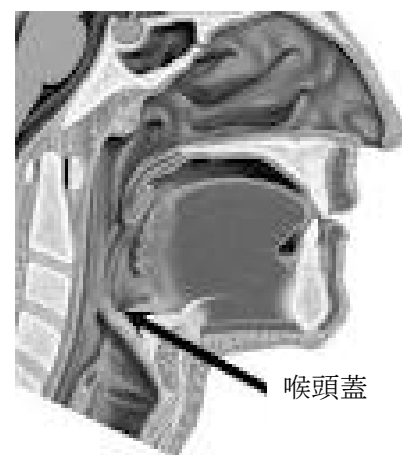
“急性喉頭蓋炎？ 緊急入院？ もう少しで窒息？”

既に考える気力もありませんでした。家族によく話を聞いてもらい、すぐに点滴が開始されました。半日後には食事でも食べられるようになり、約1週間後に退院しました。



急性喉頭蓋炎とは、文字通り喉頭（のどの奥）の蓋（ふた）の炎症です。食事の際、食物は食道・胃へ運ばれ、空気の通り道である気管へ行かないように蓋がされます。この蓋を喉頭蓋（こうとうがい）といいます。丁度、のど仏の辺りにあります。細菌やウィルスが感染すると喉頭蓋炎となります。

一般的に、中年の男性が罹りやすく、季節の変わり目に多いとされています。『風邪気味の、多忙なる働き盛りの男性が、‘宴会でお酒を飲んで、一っ風呂浴びて、夜風に吹かれて一眠り’のあと呼吸苦で発症することが多い』と、言われた時代もありました。



症状は、のどの痛みから始まり、次に食事が飲み込みにくくなります。更にすすむと、こもった声しか出せなくなり、最後は息が苦しくなります。

急速に進行した例では、別の病院で気管支炎と診断され、帰宅後4時間で窒息を来し、亡くなられた方もいます。

治療は気道（空気の通り道）の確保と抗生物質の点滴となります。本当に息が苦しくなってから来院すると、早期に受診された方と比べて、入院期間が約2倍になります。

『はい口あけて、あーん』の診察では見逃されます。

喉頭まで観察しないと診断に至らないため耳鼻咽喉科以外で診断されることは極めて稀です。

のどの痛みが急激にひどくなる時や、内科を受診しても変わらない際は是非とも、耳鼻咽喉科を受診してください。



阿伎留通信については、第1回から最新号まで、公立阿伎留医療センターのホームページで御覧にすることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)